福島市立中野小学校
桃李（とうり）の里
学校だより
発行：校長　益子　朗

体育アドバイザー
須田耕介先生の
特別授業を受けました

去る2月8日（月）、県教育庁県北教育事務所から派遣された体育アドバイザー・須田耕介先生の特別授業がありました。１・２年生はマット運動、３・４年生と５・６年生は跳び箱運動を中心にご指導いただきました。

本校の舟山先生も体育の専門家ですが、やはり時には外部の先生から指導して頂くこともよいものです。震災・原発事故以来体力の低下と肥満が指摘されている福島県ですが、こぶしっ子たちを見ていると元気はつらつです。これを機にみんなの運動能力が少しでも向上すれば素晴らしいし、トレーニングや練習のヒントになればいいですね。

ところで２月も中盤にさしかかり、今年度１４５日もの全員出席を誇るこぶしっ子たちの中にも、さすがに体調を崩す子もちらほら出てきました。インフルエンザ、ノロウイルス、感染性胃腸炎など、この時期は気をつけなければなりません。保健だよりなどでも再三呼びかけているとおり、うがいや手洗い・マスクの着用などとともに、積極的に体を鍛えて、病原菌などやっつけてしまいましょう。春はそこまで来ています。

明日は建国記念の日でお休みです（福島では信夫三山暁参りが行われます（大わらじ奉納は今日））。11は「だるま市の日」なのですが）。明後日また全員が元気に登校してくれることを願っております。

校長のつぶやき

休日前にこんな話題を一つ・・日本語は言語学的には世界でも珍しい言語なんだそうです。難しいことはわかりませんが、とても繊細で美しいことばだということは私でもわかります。文字も複雑で、漢字・ひらがな・カタカナにＡＢＣまで混ぜて使われています。これに対して、英語は合理的で簡単明瞭です。文字も大小各26文字しかありません。だからこそ世界の公用語として用いられているのでしょう。でもイギリスの対岸のフランス人は何でも英語で表現されることを嫌い、できるだけ母国語を大切にしているそうです。

果たして日本人は、この美しい日本語を大切にしているでしょうか。「近頃の若い者は・・」というのは年寄りの証拠ですが、本当に嘆かわしい日本語が、はびこっていないでしょうか。「ら」抜き「れ」抜きはもはや当たり前、さらに、

☆「気持ち悪い」・「難しい」→**「きもい」・「むずい」**（中学生以上はよく言います）

☆**「やばい」**＝「おいしい・感動的」等の意味で（本来は「あぶない」）

☆（例えばレストランで料理を運んで来た店員さんが）「お待たせしました、カレーライスになります」（何がカレーライスになったの？）

☆（例：レジでぴったりの金額を出しても）**「〇〇円からお預かりします」**（え、おつりあるの？）

☆（例：スポーツ選手のインタビューなどで）「自分のプレーが**できればいいと思っています**」（これは間違いではありませんが、「自分がするんだ」という意味が薄まり、なんとなく意志が弱く感じられます）。

先日、ある保護者の方から国語のテスト解答についてお尋ねがありました。答えが一つしかない算数と違って、言葉や文章の意味にいくつもの解釈が出来る国語には曖昧さが残りますから、疑問が出て当然です。私もテストの時に、「主人公の気持ちはどれか」という問題で自分の答えが×になって納得できないことがありました。同じ文章でも、人によって受け止め方が違います。それが日本語の特徴であり、奥深さでもあります。

「美人」「美女」「きれいな人」はみな同じでしょうか。微妙に違いますよね。また、同じ**「ばかやろう」**でも、怒っている場合、馬鹿にしている場合、親しみを表す場合、嬉しいのに照れくさい場合など、いろんな使い方があります。目の前の相手との会話ならばともかく、文字を見ただけでは誤解も生じるでしょう。これが今のメールやＬＩＮＥでのトラブルのもとです。顔も見えず文字だけでは誤解も生むし、嘘もつける。さらに最近の日本人は読書をしないからいわゆる「ボキャ貧」で、相手が言っていることの意味がわからなかったり、自分の意志を正しく伝えられなかったりするのです。

今、こぶしっ子たちは、お世辞抜きでよい日本語を使っていると思います。それは周囲の大人がよい影響を与えているからであり、保護者の皆さんも私たち教師も、そこに責任を持っていきたいものだと思います。